

別添4-8

行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワーク

構築の取り組み

分担研究報告書

令和7年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業)

強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および
地域支援体制の構築のための研究(22GC1015)
分担研究報告書

行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワーク構築の取り組み

研究代表者:日詰 正文 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

研究協力者:中澤 典子 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

室津 大吾 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

内山 聡至 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

研究要旨

本研究では、強度行動障害の状態にある人の家族や支援者が孤立しないよう広域的支援人材、中核的人材を中心に関係者が地域支援体制構築のための情報共有やつながる仕組みを構築することを目的として、「行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワーク」の設立、会員向け広報誌「Standard Support」の発行、情報アップデート Day の開催を行った。令和 8 年 3 月 31 日時点で全国ネットワークの会員登録数は 479 であり、令和 7 年 9 月から広報誌を 7 号発行した。また、情報アップデート Day には 107 名が参加し、Web アンケートには 41 名が回答した。アンケートでは、地域のネットワーク構築、広域的支援人材の活動、他自治体事業等に関する情報への関心が示された。今後は、会員登録の促進、継続的な情報発信、関係者が交流・情報共有できる機会の確保を通じて、地域支援体制構築に資するネットワークの充実を図る必要がある。

A. 研究目的

令和4(2022)年度に厚労省が行った検討会において、支援人材の専門性向上、日常的な支援体制の整備、医療・教育との連携等今後の強度行動障害支援整備の方向性が示された。支援人材の専門性向上については、中核的人材、広域的支援人材を養成するだけでなく、地域における支援者が互いに支え合い連携して支援を行うこと、率直な意見交換や情報共有等の取り組みを進めるためのネットワーク構築が求められている¹⁾。

本研究では、強度行動障害の状態にある人の家族や支援者が孤立しないよう広域的支援人材、中核的人材を中心に関係者が地域支援体制構築のための情報共有やつながる仕組みを構築することを目的とする。

B. 研究方法

本研究は以下3つの取り組みを行った。

1. 行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワークの設立

行動障害の状態にある人とその関係者が、社会的に孤立することなく、本人及び家族の意思に沿って、安心できる生活を実現できるよう環境づくりを推進することを目的に「行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワーク(以下、全国ネットワーク)」を設立した。入会ページおよび会則の URL を以下に示す。

■入会ページ:

<https://www.nozomi.go.jp/investigation/sta-sup.html>

■会則:<https://www.nozomi.go.jp/investigation/pdf/sta-sup/kaisoku.pdf>

入会方法は、Web 申し込みとした。申し込み後、事務局より会員番号をメールにて送付した。

会員種別は以下の3つとした。

- ①個人会員：本会の目的及び活動方針に賛同する強度行動障害支援者養成研修修了者、中核的人材養成研修修了者、広域的支援人材として地方公共団体等に登録されている者
- ②団体会員：上記研修並びに本会が発信する情報等に関心があり、本会の目的及び活動方針に賛同する障害福祉サービス事業所、障害児支援事業所、医療機関、教育機関、相談支援事業者・行政機関・障害当事者及び家族などで構成する各種団体
- ③賛助会員：上記研修並びに本会が発信する情報等に関心があり、本会の目的及び活動方針に賛同する個人

2. 広報誌「Standard Support」の発行

全国ネットワークの会員を対象に、強度行動障害の支援体制整備に関する情報共有を目的として、広報誌「Standard Support」を令和7年9月より月刊で発行した。発行は各月10日とし、令和8年3月末までに7号を発行した。同誌は電子データ(PDF)で作成され、前項①～③の会員向けに電子メール等により送付した。

3. 情報アップデート Day の開催と参加者アンケートの実施

広域的支援人材(候補者含む)や行政担当者を中心に強度行動障害の状態にある人たちを地域で支えている関係者が集い、地域の支援体制づくりについて最新の情報を共有することを目的に情報アップデート Day を令和7(2025)年10月1日集合形式で開催した。

受講対象は、広域的支援人材名簿登録者、都道府県政令指定都市障害福祉担当課、発達障害者支援センター、都道府県の自立支援協議会行動障害関連部会のメンバー、発達障害者地域支援マネジャー、中核的人材養成研修ディレクター、トレーナーSV、トレーナー、サブ・トレーナー経験者とした。

情報アップデート Day の参加者を対象に Web アンケートを実施した。内容は、今後の広報誌やネットワークに求めることについて、選択肢のうち上位3つを選択することを求めた。実施期間は令和7(2025)年10月1

日～10月31日であった。

【倫理面への配慮】

国立のぞみの園調査研究倫理審査委員会で承認を得た(承認番号07-08-01)。

C. 研究結果

1. 行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワークの設立

令和8年3月31日時点の全国ネットワーク会員登録数は479件であった。会員登録数の内訳は、以下の通りであった。

- ① 個人会員 226名(内訳:強度行動障害支援者養成研修修了者132名、中核的人材養成研修修了者65名、広域的支援人材29名)
- ② 団体会員 140団体
- ③ 賛助会員 113名

①から③の会員を合わせた所属機関の属性は、障害者総合支援法関係の施設および事業所が67.4%で最も多くなっていた(図1)。

また、①から③の会員を合わせた地方別の内訳は関東甲信越地方が最も多く154件であった(図2)。

2. 広報誌「Standard Support」の発行

これまで行動障害支援の第一線で活躍する支援者や行動障害の状態にある人の家族(保護者)による手記、中核的人材養成研修修了者による支援の実践に関する記事等を掲載した(表1)。

3. 情報アップデート Day の開催とアンケートの実施

当日は、計107名の参加があった。参加者を対象にした Web アンケートは、41名から回答を得た(回答率38.3%)。アンケートの結果は図3に示した。広報誌で取り上げてほしい内容の上位3項目は「広域的支援人材の活動に関すること」「地域のネットワーク構築に関すること」「支援者支援に関すること」であった。情報アップデート Day で取り上げてほしい内容の上位3項目は「地域のネットワーク構築に関すること」「広域的支援人材の活動に関すること」「他自治体事業に関すること」であった。その他意見として、「近隣県との情報交換の

機会がほしい」「相談できる場の必要性」などがあつた。

D. 考察

本研究では、強度行動障害の状態にある人の支援に関わる関係者が情報共有し、つながるための基盤として、全国ネットワークを設立し、広報誌の発行、情報アップデート Day の開催を行った。

情報アップデート Day 参加者へのアンケートの結果から、今後の全国ネットワークにおいては、施策の動向に加え、広域的支援人材の活動や地域支援体制整備の実践事例、支援者支援に関する情報等を継続的に共有することが必要だと考えられる。

ただし、本研究で把握したアンケート結果は情報アップデート Day 参加者の一部から得られたものであり、全国の支援者全体のニーズを代表するものではない。今後は、会員からの意見収集を継続し、情報発信の内容や関係者が交流する機会のあり方を検討していく必要がある。

E. 結論

本研究では、行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワークを設立し、広報誌の発行、情報アップデート Day の開催を通じて、関係者が情報共有し、つながるための基盤整備を行った。今後は、会員登録の促進、会員への継続的な情報発信、広域的支援人材や行政担当者等が集まる機会の確保を通じて、地域支援体制構築に資するネットワークの充実を図る必要がある。

【文献】

- 1) 厚生労働省(2023):強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会 報告書

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

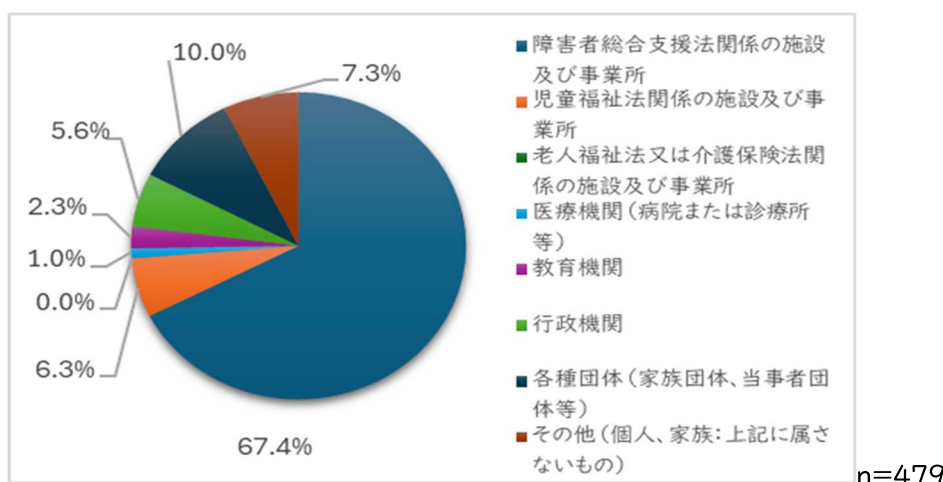


図1 全国ネットワーク会員の所属機関等の属性

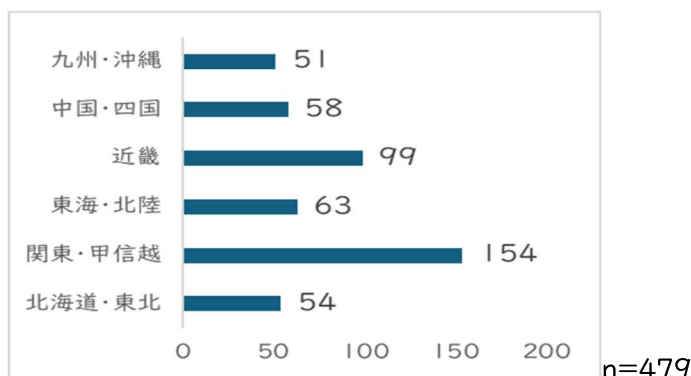


図2 全国ネットワーク会員の地域分布

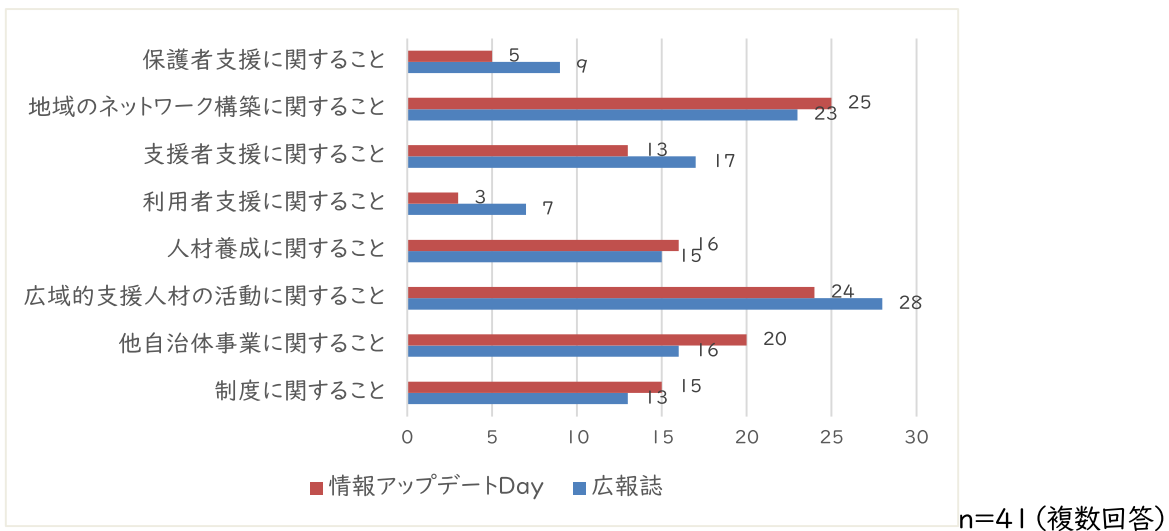


図3 情報アップデート Day および広報誌に求めること

表1 広報誌「Standard Support」目次一覧

号数	テーマ
No.001 2025. 9月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Standard Support」の発刊に当たって ● 行動障害の状態にある人の支援者全国ネットワークに期待すること ～私の体験を通して～ ● 今、もう一度言いたい 「困った人ではなく困っている人」子どもそして親も ● 行動障害の状態にある方々への支援とその充実の重要性
No.002 2025. 10月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 厚生労働科学研究の現状とこれから ● 連載 私の来た道 支援者の育成に向きあって(1) ● 連載 家族の思い(1) 「夜中に握ったハンドル」
No.003 2025. 11月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 四国だって頑張ってるぜい! 中核研修から生まれた”つながり”ご紹介 ● 連載 私の来た道 支援者の育成に向きあって(2) ● 連載 家族の思い(2) 「あんたも泣かせたろうか」
No.004 2025. 12月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護師が学ぶ機会を 強度行動障害に関わる看護師の会「KYOKAN」 ● 連載 私の来た道 支援者の育成に向きあって(3) ● 連載 家族の思い(3) 「一石を投じる存在に」
No.005 2026. 1月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 「スタ・サポネット」のめざすところ ● 連載 私の来た道 その人に、どう向き合うのか(1) ● 連載 受講者のいま ～養成研修をふりかえて～ チーム支援と連携を実践につなげる(1) ● 連載 家族の思い(1) 居場所がないと言われた先に、暮らしはつくれる
No.006 2026. 2月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 連載 私の来た道 現場で育てられた支援者マインド(2) ● 連載 受講者のいま ～養成研修をふりかえて～ チーム支援と連携を実践につなげる(2) ● 連載 家族の思い(2) 療育に、教育に、居場所はある?
No.007 2026. 3月号	<ul style="list-style-type: none"> ● 連載 受講者のいま ～養成研修をふりかえて～ チーム支援と連携を実践につなげる(3) ● 連載 家族の思い(3) 守れなくなった日常、入院を決めた日 ● 連載 私の来た道 地域で支える力を育てるために ～これからの支援を見据えて(3) ● 研修の準備に役立つ誌面づくりへ